

心づかいを感じる療養環境を探して - 第3回 -

# 院内全体をリハビリ空間とし 「再び輝ける人生のお手伝いを」 ～船橋市立リハビリテーション病院～

医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院は365日のリハビリテーション提供体制を整え、地域のリハビリテーションサービスの向上を推進させている。院内は、患者が自宅や地域に少しでも早く帰れるように建物や設備などのハード面、それを運営していく人材体制も含めたソフト面の両方から患者をサポートしている。訓練室だけのリハビリではなく、入院患者にとって“生活の場”となる病棟においても、自宅での生活をイメージしたケアとして、食堂での食事や毎食後の口腔ケア、朝夕の洗面所での洗面や日中は普段着でベッドから離れて過ごすなどを実施している。また、多職種によるチーム連携を強化するために、多職種が1つのチームとなったチームマネジャー制を導入し、従来の縦割り組織から横の繋がりを強化している。

## 職員や外部の視線をカットしつつ 開放感と見守られている安心感

医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院は、6つの回復期リハビリテーション病棟(200床)があり、地域のリハビリテーションサービスの向上を担っている。病院は船橋市立医療センターに隣接しており、2008年から公設民営で運営してきた。

病院内に入ると、右手に福祉用具ショップ、左手に喫茶「きらら」に迎え入れられ、総合受付がある。総合

受付から外来待合までモールでつながっており、その先には理学療法・作業療法・言語療法を行うリハビリ空間にたどり着く。このモール空間を歩行訓練などのリハビリとして活用しており、絶えず患者が行き来する姿を見ることができ。

このモール空間もそうだが、施設全体がリハビリを行う空間として考えられており、病院から患者への気配りを感じる設計になっている。

モールの壁には絵画等を展示しており、その反対側には一面ガラス貼りで、アートと開放感がある。モールに面する外は、病院のエントランスまでのアプローチの1つとなっており、樹木や小川など自然に囲まれている。バスを利用して病院に来院する多くの人、この道を通って心地良い四季を感じる事ができるだろう。

外を歩く道があると外部からの視線や直射日光が気になる場所だが、自

いロールスクリーンを使って視線や日差しをコントロールしている。カーテンではなくロールスクリーンを使うことで、スクリーンを下げても光をある程度取り入れて明るさと外との繋がりを感ずることができる。

また、スクリーンを床まで下げず、膝上あたりの高さにしてより外からの光や刺激を取り入れる工夫もされている。モールの途中には、通路から外側に飛び出す形で椅子とテーブルを置い

た休憩スペースが設けてある。患者や家族が外を見ながら休憩している姿もあった。

エントランス部にある福祉用具ショップは、福祉用具の販売・レンタルを行っており、入院患者の車椅子のセッティングも行う。店内は空間を広めに取り、その場でタイヤの位置や手の置き場など一人ひとりの身体に適した車椅子に調整していく。

運営は外部委託とすることで、病院

側の負担軽減や在庫管理の煩わしさを解消することができた。また福祉用具ショップの向かいにある喫茶「きらら」では、食事や飲み物の提供だけでなく、週に1度のコンサートも開かれる。

職員の配置にも工夫がされている。エントランスから理学療法・作業療法室まで歩くと気が付くだろうが、総合受付にいる2～3人の職員以外は目に入らない。もちろん、患者や家族に連



## 一人ひとりに合わせた車椅子の調整が その場でできる福祉用具ショップ

れ添う職員や通路を通る職員などはいが、通路から見えるところに職員の席を用意しているのは総合受付と外来の受付のみ。

木製ルーバーに囲まれた中に外来受付と待合室があるため、視線は感じないが職員がいるという気配を感じられるのは、患者にとって見守られている事を感じられ安心できるだろう。また、必要最低限の職員しか患者から見えない空間は、リハビリに集中でき、雑然とした空間ではなく広々とし

た空間で訓練することができる。

これら受付以外の医事や事務職員は、総合受付の後ろにある事務室がスペースとしてある。1階の平面計画としては、患者や家族が利用する空間と院内スタッフが利用する空間の大きく2つに分け、患者側からは徹底して見えないようにしている。こうすることで、患者にとっては事務室やスタッフルームなどが見えずに整然とした空間が広がる。

逆に院内スタッフにしてみると、裏

側を移動することで動線がすっきりし、効率良く動き回れることや患者との接触事故等を防ぐことも期待できるだろう。

2階から4階までの病棟は6つの病棟があり、1フロアに2病棟が入って、真ん中にあるスタッフステーションを中心にシンメトリーの配置としている。ナースステーションではなく、「スタッフステーション」と呼ぶのを先駆的に取り入れていたのは、同院の病棟で特色がある「チームマネジャー制

## チームマネジャー制の導入による 多職種間による横の連携の強化

によるもの。ナースコールも「スタッフコール」と呼び、全職種が受ける体制としている。

チームマネジャー制では、各専門職種の横の繋がりが連携を強化し、現場での実践力を発揮させることを目指す。1病棟を1チームとして、看護師、介護士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーをそれぞれのチームに配置し、管理栄養士と薬剤師を各フロアに1名配属する。

各チームには1名のチームマネ

ジャーが1名おり、責任者としてチームをまとめ、医師と連携してチーム医療を行っていく。チームマネジャーは職種の限定はしておらず、統率役として最適な人を選んでいくという。

チーム医療を行う上では、各専門職種の部署や部屋は用意しておらず、1階にスタッフルームを配置。そこにはパソコンやデスクが用意されており、事務作業や電子カルテの入力などがあればそこで作業する。

院内には院長室もなく、院長をはじめ

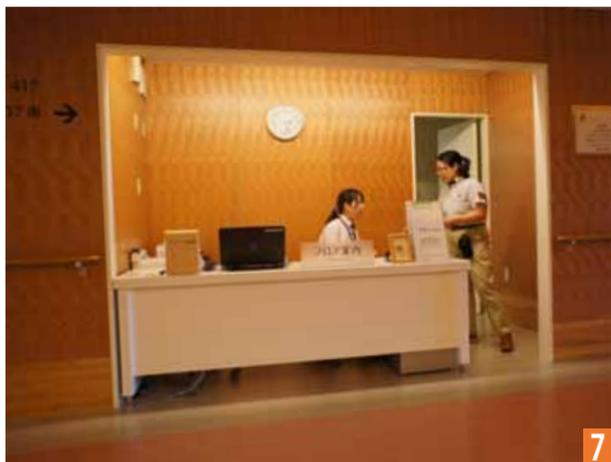
めとしたドクターも一緒にスタッフルームを利用する。こうしたことで横の繋がりをより強化できている。

輝生会本部の森本榮事務局長は「チームマネジャーがチームを統括することで情報の共有ができ、情報が広がるのも早く横の連携が強くなる」と話す。また、教育研修局を設けて各専門職の教育をサポートしていく。

こうした多職種によるチームアプローチを行う上で、職種による壁を減らす工夫もされている。同院では医師



6



7



8



9



10



11



12



13



14

## 全職種で統一のユニフォームを着用 職員同士は「〇〇さん」付けで呼び合う

や看護師、リハビリスタッフなど全員が白衣を着用せず、全職種が同じ制服で統一している。

制服は4色用意しており、好きな色の日替わりで着る事も問題なく、作業などで汗を掻いたり汚れた時にも自由に着替えることもできる。職種で異なるのはワッペンの色のみで、一見してはどの職種か分からない。スタッフ間の壁をなくす効果もあるが、患者や家族の立場としては誰にでも声をかけやすい環境にもなる。また職員同士が

「〇〇先生」と名前に先生を付けて呼ぶことはしておらず、「さん」付けで呼び合うのも、前述と同様な効果が患者やスタッフに得られるのだろう。

森本事務局長は自院の事を『病院らしからぬ病院』を目指した結果と表現し、「生活に向けたリスタートをサポートすることを心がけています。“病人らしく”扱うと“病人らしく”になってしまうので、住み慣れた地域や自宅に帰ることを前提として、病院全体で日常の生活を意識してケアを行っていま

す」と話す。

入院患者は日中、病衣ではなく普段着に着替えて過ごし、可能な限りベッドから離れて過ごしてもらっている。回復やリハビリに大きく影響する食事に関しても、病室ではなく食堂で食べていることは、患者への刺激にもなるだろう。

取材を通して病院に初めて踏み入れた時は、喫茶やモールの開放感などゆったりと落ち着いた空間ばかりが目が行っていたが、病院内を一周してエ

ントランスに戻ると、院内全体がリハビリを行う空間であることが十分に伝わってくる。

「患者さまの回復を支援し、再び『輝ける人生』のお手伝いを、チーム一丸となさせていただきます」という病院側からのメッセージがある通り、患者が自宅や地域で生活ができるようにすることを想定した生活に近いケアを提供している。

【コンサルティング事業部 隅廣】

**表紙** 総合受付から外来受付方面を見る。歩行訓練を行う姿や椅子で休憩する患者や家族の姿が見られた。総合受付の後ろ側はスタッフエリアとなり、事務室も併設されている。

- 1 モールの外側の道。樹木に囲まれた小道でバス停への道や庭園に繋がる。
- 2 総合受付には職員が常駐して外来患者や家族を案内している。
- 3 福祉用具ショップでは、身体に合わせた車椅子に調整させ、入院患者にレンタルする。
- 4 エントランス横に位置する喫茶「きらら」では、コーヒーやケーキの軽食から食事まで幅広く提供している。8月末まではカレーフェアを行っていた。

5 1病棟1チーム毎にスタッフステーションがあり、多職種が利用している。チームマネジャーを中心に常に情報交換ができる環境が整っている。

- 6 8 外来の受付。木製ルーバーを円形に並べる事で、程よく視覚を遮る。
- 7 エレベーターで病棟上がると、フロア案内の職員が出迎えてくれる。
- 9 1階にあるスタッフルームでは、パソコンが用意されており事務作業が行える。
- 10 2階には屋上庭園があり、入院患者が散策する姿も見れる。
- 11 食事は病室ではなく、病棟の食堂で食事を取る。食事には力を入れており、洋食・和食も選択できる。